

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学教員の ICT 教育技術力の向上を支援するため、大学・短期大学の教員を対象に「FDのための情報技術研究講習会」を学外 FD として実施する。学修効果を高めるオンライン授業、不正防止対策、授業運営ツールの紹介、LMS の使用方法、著作権、フォーラム型授業などについて、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定し、その上で「全体討議」として参加者が希望するテーマについて、自由に情報交流する場を設け、理解の深化を図る。

<事業の実施結果>

「FD 情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、「FD のための情報技術研究講習会」を実施した。以下に、委員会及び研究講習会の活動を報告する。

FD 情報技術講習会運営委員会

2022 年(令和 4 年)11 月 2 日、12 月 26 日に平均 8 名が出席して 2 回開催し、開催計画の策定、実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

プログラムは、「全体会」で①授業の質保証のためのオンライン活用法、②対面とオンラインを効果的に組み合わせる反転授業の方略、③授業資料・オンデマンドコンテンツにおける著作権法上の注意点の情報提供を行うことにした。また、「ワークショップ」では、①動画教材作成の紹介、②反転授業のデザインと予習動画制作、③対面・オンラインでの ICT 活用、④ハイフレックス授業のデザインと方法、⑤オンラインで多職種連携教育を始めよう、⑥オンライン授業の学修評価の 6 コースを設定し、参加者が希望に応じて参加するアラカルト方式とし、理解の深化を目指して、以下のように開催要項を策定した。

2022 年度 FD のための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：令和 5 年 2 月 27 日（月）
2. 会 場：Zoom 会議室
3. 対 象 者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学教員
4. 講習会の概要

先生方は、3 年に亘りオンライン授業を体験され、学生にとって良かった面、不都合であった面を通じて、授業価値の最大化に向けた教育方法について、見直す機会を持たれたのではないかと思います。

ご承知の通り、コロナ禍を転機に対面授業に加えて教育のデジタル変革(DX)が進みつつあります。文部科学省においてもオンライン授業を導入して、学生一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を大学に働きかけており、後戻りしないとしています。

これからは、対面とオンラインを合わせた授業を如何にデザインし、学生に最適な学びを提供できるかが問われるようになる中、実際にどのように自分の授業の中で展開していけば良いのか、不安や戸惑いを感じる教員も少なくないのではないのでしょうか。

そこで、本研究講習会では、授業の質保証のためのオンライン活用法、反転授業を中心とした対面・オンラインの組合せ授業、ハイフレックス型授業、教材作成・ICT 活用などについて、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定しました。

【全体会】

- (1) 授業の質保証のためのオンライン活用法
渡辺 雄貴 氏(東京理科大学教育支援機構教職教育センター教授)
- (2) 対面とオンラインを効果的に組み合わせる反転授業の方略

- 岩崎 千晶 氏(関西大学教育開発支援センター副センター長、教育推進部教授)
 (3) 授業資料・オンデマンドコンテンツにおける著作権法上の注意点
 中村 壽宏 氏(神奈川大学学長補佐、教育支援センター所長、法学部教授)

【ワークショップ】

ここでは、動画教材作成、反転授業のデザイン、ICT 活用事例、ハイフレックス型授業のデザイン、分野連携授業、オンライン授業の学修評価について、知識理解や情報技術の情報提供を通じて、参加者同士で意見交換しながら理解を深めるため、参加される先生それぞれが希望に応じて参加するアラカルト方式で実施します。

(1) ワークショップ 1

「動画教材作成の紹介：パワーポイントに字幕を付与したビデオ作成など」

朽尾 真一 氏(追手門学院大学経済学部経済学科准教授)

(2) ワークショップ 2

「反転授業のデザインと予習動画制作」

岩崎 千晶 氏(関西大学教育開発支援センター副センター長、教育推進部教授)

(3) ワークショップ 3

「対面・オンラインでの ICT 活用：LMS、2D メタバース、タブレット板書、講義室機器等の紹介」

及川 義道 氏(東海大学教育開発研究センター所長、理系教育センター次長・教授)

(4) ワークショップ 4

「ハイフレックス授業のデザインと方法」

渡辺 博芳 氏(帝京大学ラーニングテクノロジー開発室所長、理工学部教授)

(5) ワークショップ 5

「オンラインで多職種連携教育を始めよう：医療系分野からの提案」

片岡 竜太 氏(昭和大学統括教育推進室、歯学部歯学教育学講座教授)

(6) ワークショップ 6

「オンライン授業の学修評価方法」

渡辺 雄貴 氏(東京理科大学教育支援機構教職教育センター教授)

「オンライン授業における経済系授業の学修評価実践」

高木 功 氏(創価大学経済学部部長)

(2) 実施結果

2023年(令和5年)2月27日に開催し、Zoom 会議室を会場に 42 大学 2 短期大学から 60 名の参加があった。以下に、アンケートを踏まえた結果を報告する。

1. 参加教員全員を対象とする全体会では、「授業の質保証のためのオンライン活用法」、「対面とオンラインを効果的に組み合わせる反転授業の方略」、「授業資料・オンデマンドコンテンツにおける著作権法上の注意点」について説明を行った。

参加された教員からの全体会の感想としては、「今回は、授業方法、反転学習、法的側面についての包括的な話とワークショップで多くのことを勉強できた」、「反転授業を始めコロナ後の大学を取り巻く授業手法の動向がよくわかりためになった」、「なんとなく肌で感じていたことを、裏打ちされたデータで解釈した説明を拝聴することで整理がついた」、「反転授業はやってみたいと思いつつ導入するに至らなかったが、1 科目の 1 コマから始めてみようという考えを教えてもらい、なるほどと思った」などが寄せられた。

2. ワークショップの達成度を以下に掲載する。(アンケートの回答者 23 名)

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① 動画教材作成の紹介	2 割(1 人)	6 割(3 人)	2 割(1 人)
② 反転授業のデザインと予習動画制作	2 割(2 人)	8 割(8 人)	
③ 対面・オンラインでの ICT 活用	1 割(1 人)	9 割(6 人)	
④ ハイフレックス授業のデザインと方法	1 割(1 人)	7 割(5 人)	2 割(2 人)
⑤ オンラインで多職種連携教育を始めよう		10 割(5 人)	
⑥ オンライン授業の学修評価	2 割(2 人)	8 割(7 人)	

3. ワークショップ参加者からの特徴的な感想を紹介する。

- ① 動画教材作成の紹介は、「自分で操作しながら話を聞くところまでいかなかったが、すぐに録画や資料を見直して字幕の付け方を習得したい」、「字幕を付けることについて、その方法が勉強になった。ゼミナールなど一部の授業でとり入れたいと思う」などの感想があった。
- ② 反転授業のデザインと予習動画制作は、「自分の授業でも実践できそうだと思う」、「医学部でシミュレーション教育を実施する上で、効果的な学修(実習)をするための知識習得の事前学習に提案しようと思う」、「反転授業(予習)をすることで、授業では何をさせて知識の定着の確認や応用になるのかを考えなければ奈良ないことがわかり、インストラクションデザインという面でも良い勉強になった」などの感想があった。
- ③ 対面・オンラインでの ICT 活用は、「2D メタバースを実体験でき貴重な体験でした」、「ブレイクアウトの議論で、同様の問題を抱えている教員が多いことが分かり安心した」、「期待通りの講習会の設計コンセプトと講師陣と参加者のみなさんでした」などの感想があった。
- ④ ハイフレックス授業のデザインと方法は、「既にハイフレックスに取り組み LMS を効果的に活用している教員と、視覚・聴覚など違和感のない、オンラインと対面のハイフレックス教育空間を創造したいという思いを共有できたことが良かった」、「意見交換は有意義であったが、悩みを打ち明け合うところで時間が来て、知的な活動に進まなかった」などの感想があった。
- ⑤ オンラインで多職種連携教育を始めようは、「多職種連携の授業の企画は、やはり準備が大変だと改めて思い、方向性が見えたように思う」、「自大学での実習シラバスの内容が不足していることに気づき、目標の設定、成果、評価方法が明確に示されていると学生も教員もわかりやすいと思った」、「なかなか連携が取れない分野の教員がどのような動きをしているのか、分かり大変参考になった」などの感想があった。
- ⑥ オンライン授業の学修評価方法は、「自分自身で試行錯誤するだけでしたが、実践例を伺うことができ、客観視するきっかけをいただいた」、「自分の授業でインストラクションデザインができているのか、改めて考えなおす良い機会となり、授業の改善につながれば良いと思った」、「シラバスの目標と評価について、他大学のシラバスを見ながら意見交換できたので、とてもためになった」などの感想があった。